

沖縄平和学習映像教材 第5編沖縄の苦難

探究ワーク 2

基地周辺の負担 沖縄・コザと横浜黄金町を比較する

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:基地周辺の負担 ——沖縄・コザと横浜黄金町を比較する

横浜の黄金町周辺に見られたように、米軍基地の周辺には、基地経済に依存した風俗街が形成されるケースが少なくありません。沖縄のコザ(現在の沖縄市)も同様に、嘉手納基地のゲート前に発展し、米兵を対象とする飲食店、バー、そして風俗店が集中する「基地の街」となりました。その背景には、沖縄特有の歴史的、社会経済的な要因がありました。

経済的依存と「性の防波堤」

戦後、生活基盤を失った住民にとって、米軍人の消費は大きな収入源となりました。基地周辺には飲食店、バー、ホテルなどが集まり、基地経済と結びついた歓楽街が形成されました。一方で、売春や性暴力、性病など、基地の街特有の社会問題も生じました。

※性の防波堤:当時の国家や行政側が一般市民への性被害を防ぐという名目で正当化に使った言葉

米軍による管理と社会問題

米軍は、衛生や施設など一定の基準を満たした飲食店やホテルに「Aサイン」を交付し、米軍人が利用できる店として認可しました。また、米軍は性病対策や風紀取締りも行いました。しかし、こうした制度は主として米軍人の健康や軍紀を守ることを目的としており、売春や女性をめぐる問題そのものを解決するものではありませんでした。

文化の融合と複雑な感情

コザでは、アメリカ音楽と沖縄の音楽、食文化などが交わり、独自の文化が生まれました。その一方で、米軍統治、事件・事故、基地経済への依存などをめぐる不満も存在しました。基地は街の経済や文化を生み出す一方で、さまざまな矛盾や社会問題も生み出したのです。

横浜市黄金町

かつて黄金町周辺は、戦後に特殊飲食店が集まり、売春や違法営業、治安悪化が問題となった地域でした。その後、2005年の一斉摘発を大きな転機として、横浜市・地域住民・NPOなどが連携し、空き店舗や高架下空間をアーティストの制作・展示拠点として活用するようになりました。現在は「黄金町バザール」などのアートイベントや、アーティスト・イン・レジデンスを通じて、文化芸術による地域再生が進められています。

基地は、その地域に「何をもちたらし、何を負担させたのか」
「基地周辺の人々が負っている負担はそのほかの地域に住み人々にとってどのようにとらえればよいのだろうか」
「これと似た社会的構図はほかにはないだろうか」

基地や歓楽街を背景に発展した街は、過去の歴史をどのように残しながら、新しい産業・文化・都市空間へ再編していくべきか。



出典:沖縄県公文書館 山崎孝史「USCAR文書からみたAサイン制度と売春・性病規制」(『沖縄県公文書館研究紀要』第10号、2008年)、沖縄市観光ポータル「Aサイン」を基に作成。

地域が得た仕事や文化と、負ってきた負担の両面を考える。

黄金町の再生を手がかりに、歴史を引き継ぐ街づくりを構想する。

探究ワーク 2: 基地周辺の負担 沖縄・コザと横浜黄金町を比較する

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

基地経済と結びついたコザの歴史と、歓楽街から文化芸術による再生を進めた黄金町を比較する。仕事や文化、負担の分布、歴史の継承を関連づけ、4問すべてを考える。

1 本時の目標と準備

目標:①地域にもたらされたものと負担を、具体例で整理する。②利益を受ける人と負担を負う人の違いに気づく。③黄金町の取組から着想を得て、地域の歴史と人々の生活を尊重する街づくりを考える。

準備:今回のスライド2枚、ワークシート1枚、筆記用具。4人程度の班をつくり、資料を投影または配布する。映像視聴は別時間とする。比較では、時代・場所・基地との関係が同じではないことを初めに確認する。

2 本時の展開 25 分

時間	生徒の活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	狙い・見取り
5 分	2枚を読み、2段階で整理 第1段階に具体例、第2段階に人や立場の違いを書く。	1分で4問を説明。2分で仕事・文化・負担・再生の取組に線を引く。2分で「誰に何がもたらされたか」を整理する。 発問①「仕事や文化の例は何ですか」 発問②「どのような負担が書かれていますか」 声かけ「資料の言葉と、自分の考えを分けてメモしよう」	資料の具体例を挙げ、もたらされたものと負担の両面を捉えられるか。
10 分	4問を各約2分に対話 残り2分で別の理由や立場を探す。	問ごとに一人が考えを述べ、別の人が根拠や異なる見方を加える。各自が短くメモする。問3は似ている「仕組み」を、問4は誰と何をするかまで考える。最後の2分で見落とした立場を探す。 発問①「利益と負担は同じ人に生じますか」 発問②「ほかの立場からはどう見えますか」 声かけ「結論を一つにそろえず、理由を出し合おう」	利益と負担の分布を考え、地域の内外や立場の違いを説明できるか。
7 分	各自で4問の解答を整える 黄金町の解説を活用し、具体例と理由をつなぐ。	4問に各約1分半を使い、最後の1分で読み直す。問4では解説の「歴史に向き合う・連携する・記憶を継ぐ」を示す。書けない生徒には次頁のヒントを一つ渡す。 発問①「どの具体例が考えの根拠ですか」 発問②「提案には誰の参加が必要ですか」 声かけ「何をするかに加え、誰のためかも書こう」	根拠と理由がつながり、街づくりの提案に関係者や歴史への配慮があるか。
3 分	共有して加筆 現地で確かめたいことを一つ残す。	2分でペアの問4を読み合い、1分で確かめたいことを欄外に書く。成功の面だけでなく、資料に書かれていない課題にも目を向ける。 発問①「提案で困る人はいないでしょうか」 発問②「現地の何を見聞きて確かめたいですか」 声かけ「まだ分からない点を、次の問いにしよう」	他者の見方を加え、提案を確かめる問いを持てるか。

指導上の留意点

性暴力や搾取は人権の問題として扱い、刺激的な描写や生徒自身の経験を求めない。「性の防波堤」は当時の正当化に使われた言葉であり、被害を必要な犠牲と認める説明にしない。地域や女性への偏見を助長しない。

到達のイメージ

「基地経済は仕事や文化を生む一方、負担が地域や特定の人々に集中した。地域外の人も関係を考える必要がある。再生では住民などが連携し、歴史の記録と新たな仕事・文化を両立させたい」と、具体例・立場・提案をつないで説明できる。

解説を活かした問いの深め方と授業の支援

3 資料をどうつなぐか

「経済的依存」「米軍による管理」「文化と感情」を、収入や仕事、管理の目的、人々の負担の3点で整理する。「Aサイン」は米軍人が利用する店の認可制度として説明し、それが地域の人権や生活上の問題をすべて解決する制度ではなかった点を押さえる。「黄金町の事例」を考察の手がかりとする。横浜において①過去の問題に向き合う、②行政・住民・NPOなどが連携する、③空き店舗などを制作・展示に活用する、④記憶と未来をつなぐ、という順で読む。解説が評価する成果と、資料だけでは分からない住民の評価や残る課題を分ける。

コザと黄金町の比較は、経済への依存、負担、文化、再生の仕組みに着目する。黄金町をコザと同じ基地都市とみなしたり、アートを取り入れればどの地域も再生すると一般化したりしない。違いを踏まえて応用できる点を探す。

4 4つの問いのヒントと解答例の使い方

問1 基地は地域に何をもたらし、何を負担させたか

まず仕事・収入・音楽・食文化と、事故・騒音・性暴力や搾取・経済的依存などを分ける。次に「誰にとって」を加える。ヒント:「店を営む人、働く人、周辺住民では経験が同じだろうか」。例:「飲食店などの仕事や文化が生まれた一方、住民が事故などへの不安を抱えた」。収入が被害を帳消しにするという説明にしない。

問2 地域外の人には「負担」をどう捉えるべきか

「自分と無関係か → どのような関係があるか → 何を知り、どう関わるか」の順で考える。ヒント:「地域外の人を受ける利益や、制度・政策を通じた関わりはないか」。例:「遠い地域の問題で終わらせず、負担を負う人の声を聞き、負担の分かち方を考える」。特定の賛否を正解とせず、理由を見取る。

問3 基地問題と似た「社会的な構図」はほかにあるか

一例を選び、「利益を受ける人／負担を負う人／依存している仕事や仕組み」を比べる。ヒント:「観光地の混雑やごみ、工場周辺の環境負担などではどうか」。例:「観光は収入を生むが、混雑の負担は住民に集中することがある」。これらは比較の候補であり、実態は追加資料で確認する。被害の内容や程度まで同一視しない。「エネルギー問題」では地方がエネルギー共有を担い、都市部が消費するという構図。世界においても同様の社会的構図が存在することを確認させたい。

問4 歴史を残しながら、どのように街を「再編」するか

黄金町の解説から取組を一つ選び、何を残すか・何を変えるか・誰と行うかを考える。ヒント:「写真や証言を残す場、空き店舗を活かす仕事や文化の場を、住民とどうつくるか」。例:「住民やNPO、行政が話し合い、歴史の展示と新たな活動の場を整える」。暮らしやすさ、参加できない人の声、継続の条件も問い返す。

5 ヒントは必要に応じて一つずつ示す

初めから解答例を読み上げず、まず生徒のメモを見て「どこで困った？」と聞く。具体例が出ない時は該当する資料の見出しを示す。例が並ぶだけなら「誰に何が起きた?」、理由が弱ければ「なぜそう考えた?」と尋ねる。書き出せない時だけ「～という例から、～と考える」と文の形を示す。30秒ほど考える時間を取り、自分の根拠で説明できたか確認する。解答例は比較材料として使い、同じ結論を求めない。

6 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	資料・整理5分 → 対話 10 分 → 個人解答7分 → 共有3分。	一人一つ具体例を出してから考える。
2 併用型	資料・整理5分 → 個人解答8分 → 共有・別の理由2分 → 修正7分 → 現地の問い3分。	初稿を残して加筆する。
3 自立型	資料・整理5分 → 個人解答8分 → 別の立場の検討2分 → 相互確認7分 → 修正・問い3分。	根拠と提案の条件を確認する。

7 現地学習への接続

コザでは基地と街の位置、商店や音楽文化、地域の展示や語りを手がかりに、仕事・文化・負担の関係を確かめる。黄金町では建物の活用や歴史の伝え方に注目する。過去と現在を区別し、一人の話を地域全体の意見としない。

探究ワーク 2: 基地周辺の負担 沖縄・コザと横浜黄金町を比較する

年 組 番 名前

日付

2枚のスライドを読み、具体例を根拠に4問を考えよう。2つの街の時代や状況の違いにも気をつけよう。

第1段階 資料から分かることを整理する

仕事・収入・文化／負担や社会問題／黄金町の再生の取組から、具体例をメモしよう。

第2段階 誰にとっての利益・負担なのかを考える

住民・働く人・店を営む人・地域外の人などから、立場を変えて気づいたことを書こう。

問1 基地は、その地域に何をもたらし、何を負担させたのだろうか。

ヒント: 仕事や収入、音楽・食文化と、事故・騒音・人権の問題などを並べよう。「誰にとって」を加え、両面を理由とともに説明しよう。

問2 基地周辺の人々が負っている負担を、ほかの地域に住む人々はどう捉えればよいだろうか。

ヒント: 「自分との関係」「知る必要があること」「関わり方」の順に考える。負担を負う人の声を聞くことや、負担の分かち方にも目を向けよう。

問3 これと似た社会的な構図は、ほかにはないだろうか。

ヒント: 観光地の混雑や工場周辺の環境負担など、一例を選ぶ。利益を受ける人と負担を負う人を比べ、似ている仕組みと違う点を考えよう。

問4 基地や歓楽街を背景に発展した街は、歴史をどう残しながら、新しい産業・文化・都市空間へ再編すべきだろうか。

ヒント: 黄金町の解説から取組の一つ選ぶ。「何を残すか・何を变えるか・誰と進めるか」を具体化し、住民の暮らしや参加にも配慮しよう。

現地で確かめたいことを書こう。どこで、何を見たり・何を聞くと、そのことを確かめられるだろうか。